

平成28年度京都市景観市民会議

報告書

(目次)

1	「景観市民会議」とは.....	1
2	平成28年度京都市景観市民会議の概要.....	2
3	会議開催状況.....	4
(1)	第1部 報告・話題提供.....	4
(2)	第2部 ワークショップ.....	6
(3)	第3部 全体会議（総括）.....	9



1 「景観市民会議」とは

京都市では、平成19年9月から新景観政策を実施するとともに、平成22年度末には、「景観政策検証システム」を構築しています。このシステムは、景観政策を持続的に検証し、その結果を周知するとともに、市民や事業者の皆様と意見交換を行い、継続的に政策を進化させることを目的としています。

「景観市民会議」は、このシステムに基づき、景観政策に対する市民の皆様からの御意見を頂戴する場として平成23年度から開催しているもので、今年度は「歴史と文化を未来につなぐ京都の景観づくり～残せるか？お寺・神社のある風景～」をテーマに開催しました。

2 平成28年度京都市景観市民会議の概要

日時 平成28年8月28日（日曜日）午後1時～午後4時30分

場所 ひと・まち交流館京都 地下1階

京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2

参加者 市民公募委員16名、有識者9名、傍聴者50名、報道関係者2名

テーマ 歴史と文化を未来につなぐ京都の景観づくり
～残せるか？お寺・神社のある風景～

次第 第1部 報告・話題提供

第2部 ワークショップ

第3部 全体会議（総括）

トータルコーディネーター 門内輝行 大阪芸術大学教授 京都大学名誉教授



傍聴者募集チラシ

《テーマ設定の背景と趣旨》

近年、市内の歴史的景観を構成する重要な寺社やその周辺の一部で、景観に影響を及ぼしかねない事例が発生しており、京都市では平成26年度から検証事業を実施して、「歴史的景観の保全に関する取組方針（案）」をまとめました。

景観市民会議では、京都市からの取組方針（案）の報告や有識者からの話題提供、市民公募委員や有識者によるワークショップを通じて、歴史的景観の保全策等について考えました。

平成28年度京都市景観市民会議 委員名簿

(敬称略)

	区 分	氏 名	所属等
	トータルコーディネーター	もんない てるゆき 門内 輝行	大阪芸術大学教授 京都大学名誉教授
A	市民公募委員	かまの ゆき 鎌野 有紀	
		かんべ あきら 神戸 啓	
		なかじ よしこ 中路 淑子	
		むらい なおや 村井 直也	
	有識者	にしむら こうへい 西村 孝平	都市居住推進研究会 代表代行 株式会社八清 代表取締役
	京都市景観デザイン会議	しもにし いさお 下西 伊佐男	京都府建築家協同組合
		ほにゅうだ ひでお 羽生田 英雄	一般社団法人 京都建築設計監理協会
ファシリテーター・ 記録	あべ まいこ 阿部 麻衣子	NPO法人 京都景観フォーラム	
	とじま かずえ 遠島 和恵	NPO法人 京都景観フォーラム	
B	市民公募委員	さいとう かずのぶ 齊藤 和信	
		にしむら りょうこ 西村 良子	
		はまぶら みほこ 濱淵 美保子	
		ふかえ りょうすけ 深江 亮介	
	有識者	いとう なおほる 伊藤 尚治	京の社家を学ぶ会 代表
	京都市景観デザイン会議	えさか ゆきのり 江坂 幸典	一般社団法人 京都府建築士会
	ファシリテーター・ 記録	はっとり まさかず 服部 真和	NPO法人 京都景観フォーラム
やまがた かずは 山縣 一葉		景観政策課 係員	
C	市民公募委員	ささ ちさり 佐々 知紗理	
		つじの たかお 辻野 隆雄	
		なかやま よしえ 中山 貴恵	
		にいづま じんべい 新妻 人平	
	有識者	なかにし しんや 中西 真也	株式会社リーフ・パブリケーションズ 代表取締役
	京都市景観デザイン会議	どうげ しゅんたろう 道家 駿太郎	公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 京都地域会
	ファシリテーター・ 記録	きたがわ みさと 北川 美里	NPO法人 京都景観フォーラム
とみやま いくこ 富山 育子		NPO法人 京都景観フォーラム	
D	市民公募委員	いもり ちなつ 飯森 千夏	
		きむら あきひこ 木村 晶彦	
		さかさだ たかゆき 榊田 隆之	
		とくみつ と きこ 徳光 都妃子	
	有識者	うかい ひでのり 鵜飼 秀徳	日経BP社 副編集長 京都 嵯峨 正覺寺 副住職
	京都市景観デザイン会議	なわ ひろまさ 名和 啓雅	一般社団法人 京都府建築士事務所協会
ファシリテーター・ 記録	たけやま なおゆき 竹山 奈乙雪	NPO法人 京都景観フォーラム	
	ふくもと えりか 福本 えりか	景観政策課 係員	

3 会議開催状況

(1) 第1部 報告・話題提供

第1部では、京都市から「歴史的景観の保全に関する取組方針（案）」について報告を行い、4名の有識者から話題提供をいただきました。

ア 京都市からの報告（上原智子 歴史的景観保全担当課長）

- ・ 近年、寺社やその周辺の一部で、景観に影響を及ぼしかねない事例が発生している。こうした事態を受け、京都市では平成26年度から世界遺産をはじめとする寺社等とその周辺の景観に関する総点検を行い、この度、「取組方針（案）」を取りまとめた。
- ・ こうした事例の背景には、寺社の所有者、事業者、近隣住民等の関係者間で、歴史的資産の価値や地域の景観の特性等の共有が十分ではなく、対話が不足しているということが考えられる。
- ・ そのため、地域の成り立ちや風土、環境等を手掛かりにして、その土地で大切に守っていくものを、関係者や市民の皆様で共有することが大切だと考えている。
- ・ 京都市が考える方策は以下の3つ。

① 喪失の危機にある歴史的景観を保全するための景観規制の充実

【具体的な主な内容】

眺望空間創生条例の活用や専門家等による丁寧な審査
よう壁や駐車場等のきめ細やかなデザイン基準の検討

② 歴史的景観を保全するとともに、より良い景観へと誘導する有効な支援策

【具体的な主な内容】

建物修理や樹木の維持管理等への支援
活用方法等を協議・提案する仕組みの検討

③ 市民や事業者、寺社等との協働による景観づくりの推進

【具体的な主な内容】

普段から市民・事業者・寺社等と一緒に考え、協働する景観づくり

- ・ これらの「取組方針（案）」は、9月30日まで市民意見募集を行っており、併せて、「守っていききたい歴史的景観」の提案募集も行っている。



イ 話題提供の概要

① 鵜飼秀徳氏（日経BP社 副編集長，京都 嵯峨 正覺寺 副住職）

【寺院の現状，これからの寺院のあり方について】

全国的に寺院は危機的状況にある。檀家は減少し，空き寺が増加する傾向。空き寺の伽藍が崩壊するという話も聞く。寺院の経営は厳しく，兼業している住職も多い。追い詰められた寺院は，境内敷地に納骨堂のビル等を建設するなどして収入を得る場合もあるが，景観にも影響を及ぼしかねない。結果的に強みのある寺院は生き残るが，個性のない寺院はどんどん無くなっていく。うまく地域と寺院との接点をつくるのが重要になってくるのではないかな。

② 伊藤尚治氏（京の社家を学ぶ会 代表）

【上賀茂神社の社家町を中心とした地域での活動について】

上賀茂神社周辺の社家住宅を保全するため，周辺住民とともに「寺子屋（勉強会）」を7年間実施してきた。社家住宅はいかに重要で残していかなければならない存在であるのかということを知り，考える活動を続けている。しかし，歴史ある社家住宅が解体される事例もあり，社家町も厳しい状況にある。また，古い文化が消えていくことも残念に思う。

③ 西村孝平氏（都市居住推進研究会 代表代行，株式会社八清 代表取締役）

【都市居住推進研究会の取組や京都の不動産事情について】

都市居住推進研究会は，京都市内で不動産や建築に携わっている民間団体等が集まり，京都市や京都府に提言を行っている。今年も，路地の魅力を再発見するため，路地21選ということを行っている。

京都市の不動産事情は，ホテルや宿泊施設用として売買価格がヒートアップしている。「民泊ジェントリフィケーション」という言葉もあるが，このままでは観光用の物件が増え，生活に必要な居住用の物件が無くなってしまふことが懸念される。

④ 中西真也氏（株式会社リーフ・パブリケーションズ 代表取締役）

【京都の魅力発信と歴史的資産の活用について】

雑誌「Leaf」で京都市の都心部を取材し続けてきたが，ここ数年，京都の町並みは劇的に美しく，清潔になったと感じる。飲食業やホテルのレベルが上がり，料理はおいしくなって，サービスも向上し，非常に快適になった。歴史的な建物，景観をうまく活かして商売をされているお店も増えている。今の京都は，OL，女性，外国の方も楽しめるようになってきている。



話題提供の様子（左：鵜飼氏，右：伊藤氏）

ウ 門内トータルコーディネーターからの中間まとめ

- ・ 京都は1200年余りの歴史を持っているので、歴史的景観はたくさんある。これまで京都市は町家を中心に景観問題に取り組んできたが、文化財の中核そのものが壊れる、またその周辺で様々な変化が起こっているということが分かってきて、寺や神社を含む歴史的景観を問題にしようというのが今回の取組。
- ・ 観光の問題もあるが、2020年の東京オリンピックは、ある意味、文化財を世界に発信できるチャンスであり、日本に来る方にどういった体験を提供するのかを考えなければいけない。
- ・ 京都の居住文化を体験したい外国人はたくさんいるが、コアになる居住文化が失われてしまっは意味がない。私たちが引き継いできた文化は何で、未来に何を継承するのかということが重要になってくる。
- ・ その中で、寺社を含む歴史的景観をどのように保全、再生、創造していくのか、京都が世界にどういった情報発信ができるのかという視点も入れながら議論していただきたい。

(2) 第2部 ワークショップ

第2部では、4つのテーブルを設け、ステップ1とステップ2にテーマを分けてテーブル毎に意見交換を行っていただきました。意見交換は、市民公募委員、有識者を交えて実施しました。



会議の様子（ワークショップ）

ア ステップ1の意見概要（テーマ：歴史的景観を残す上での問題点）

【Aグループ】

- ・ 「歴史的景観」や「守るべき歴史的景観」が抽象的で、具体化することは難しい。
- ・ 寺社と市民との距離が時代とともに離れている感じがあり、特に若い世代は関心が薄い。
- ・ 寺社を継続するにあたっては費用が重要。経済的な観点で考える必要がある。

【Bグループ】

- ・ 「お金」に関する問題と「人」に関する問題とで議論が盛り上がった。
- ・ 「お金」に関する問題では、大社寺が所有する建物と個人が所有するような建物とを分けて考える必要があり、どのようにして費用集めるのかを考える必要がある。
- ・ 「人」に関する問題では、歴史的建物の所有者や周辺住民、訪れる方がその価値に気づいていないことがあり、また、地域の良さを伝える場や機会も少ない。
- ・ 保全の仕方は、現状維持か現代に合せた方法にするのか、様々な考え方があるが、残す目的をはっきりさせなければならない。

【Cグループ】

- ・ 地域住民同士や寺院と地域とのコミュニケーションや連携が不足しており、問題が発生してから協働して取り組むのでは手遅れになる恐れがある。
- ・ 夜間景観や空き家について十分な議論が必要。
- ・ 保全には維持管理費がかかる。
- ・ 世界遺産やその周辺だけでなく、京都の空気感や背景にある生活文化も重要である。

【Dグループ】

- ・ まちづくりに関して、今日の市民会議のような市民が意見を出せる機会をもっと設けることが大切。
- ・ 観光地に関わる人々のメリットと、住民への影響は大きく異なり、合意形成がとれていない。
- ・ 風情や静けさ、そういったものを含んだ規制を考えることができないか。
- ・ 家族の形が変容し、世代間の意識の違いを家族で埋めることができない。

イ ステップ2の意見概要（テーマ：歴史的景観を残すためにできること）

【Aグループ】

- ・ 守るべき景観と守るべき地域をどうするか、どういうことまでやっているのかということを徹底的に議論する必要がある。
- ・ 寺社文化を理解できる価値観を持つ若い世代を育てることも大事である。
- ・ 寺社関係者ばかりが集まる会議を設けてもいいのではないか。
- ・ 地震や火災が起こった時に、どう寺社を立て直していくのか考える必要がある。京都全体を保険に掛けるくらいの心意気があってもよい。

【Bグループ】

- ・ 歴史的景観を守っていく価値を感じる人たちへの情報発信が重要。
- ・ 一般の方と寺社側とがつながる場を設け、みんなで守っていかなければならないと思ってもらうことが必要。
- ・ 寄付や投資を募ることも考えられるが、投資の場合はメリットが必要。
- ・ 投資をしたい方と寺社をうまくつなげるNPO等の機関も作っていかないといけない。
- ・ 政教分離で難しいが、教育における寺社の位置付けも考えなければならない。

【Cグループ】

- ・ これまで地域の文化、コミュニティの拠点として寺社が果たしていた役割を再認識してみよう。
- ・ 地域で連携をとり、課題や景観の将来のあるべき姿について共通認識を持つことが必要。
- ・ 建築等のデザインのクオリティーの向上を図ることも重要。

【Dグループ】

- ・ 公共財としての寺社の存在意義を住民の中でもう一度見直す必要があるのではないか。
- ・ 住民の意見を取りまとめるタウンミーティングのような場所・機会を重要視すべき。
- ・ バッファゾーンの内容や範囲について議論し、法整備につなげることはできないか。
- ・ まちを歩く、ゴミ拾いをするなど、まちをよく知ることから始めるべき。
- ・ 氏子・檀家を超えたファンクラブをつくってはどうか。寺子屋のようなものにつながっていくのではないか。



会議の様子（ワークショップ）

(3) 第3部 全体会議（総括）

ア 会場からの主な意見

- ・ 地域の寺社では、後継ぎがおらず、高齢化で管理が十分にできていない。高齢化も大きな問題だと思う。
- ・ 山や田畑の歴史的景観の維持も難しいように思う。
- ・ 景観保全にはコストがかかるもの。質の良いインバウンドを強化し、観光業を産業として成り立たせるため、観光を学問として捉えていく環境も必要ではないか。
- ・ 社寺へのアプローチ空間、道路の景観は非常に重要だと思う。
- ・ 寺社や眺望景観の問題は町内で手を付けられる域を超えてしまっていると感じた。

イ 門内トータルコーディネーターからの総括

- ・ 物質的に豊かになり、便利で均質化された世界になっていっても、人間の精神的な深さや文化的な深さ、人間が生きていく根源につながる問題が忘れられてはいけない。人は、他者との共存や自然との共生の中で生きているもので、寺社はそれらを思い出させてくれる大切な手がかりである。そういった寺社の存在意義を深いレベルで議論できる場を作っていく必要がある。また、そういった精神的な深い部分を持っている場所が京都だと思う。
- ・ 都市景観学とは都市の人相学とも言える。景観をどのようにメンテナンスしているのか、人はどういう風に生きているのかという、生き様等そのものが景観となって現れる。そういった広い意味での景観を考える点で、寺社の問題を考えるのは非常に良いきっかけとなる。
- ・ コミュニティビジネスや新しい経済のあり方等が注目を集めるようになってきているが、快適な環境や美しい景観のある場所には、人が住みたいと思うものである。21世紀の地域社会の最大の財産は人材であり、そういう意味では、美しい景観をつくる、住みやすい環境をつくるということは、優れ

た人材を引き付ける要因となるわけで、良好な景観への取組は実は経済を豊かにする根幹になる。皆さんの議論の中でも、そういった点も出てきたのではないかと思います。



会議の様子（左：門内トータルコーディネーター，右：質疑応答）